

## 第 18 回 KVS セミナー講演録

### 『世界に飛び出す物づくり』中小企業の底力

1. 講師:株式会社アオキ 社長 青木豊彦氏
2. 日時:2008年3月11日(火) 19:00~ (講演会終了後交流会が行われました。)
3. 会場:東工大田町 キャンパスイノベーションセンター 国際会議室
4. 参加者:56名

#### ・講演要旨

2008年3月11日、東大阪市の(株)アオキ社長の青木豊彦さんをお迎えして、「**世界に飛び出すモノづくり・中小企業の底力**」という痛快なお話をお聞きました。

青木さんは従業員 30 人の小さな農機具部品製造の町工場を、米国大手航空機メーカー・ボーイング社の認定工場にまで押し上げた異色の経営者です。モノづくりの町の復活を目指すリーダーとして、東大阪の中小企業をまとめて人工衛星「まいど」を打ち上げ、今やその活躍ぶりは日本全国はもとよりアメリカ、ヨーロッパまでも広く知られています。

東大阪は戦前戦後を通じてモノづくりの町として、東京の大田区、墨田区などと同じく多くの中小企業が集まっています。

大阪近郊で 15 坪から 30 坪の貸工場が多く、起業しやすいこともあって、ピーク時には一万社を越えるさまざまな技術を持つ町工場が、歯ブラシからロケットまでお互いにモノづくりの腕を競い合ってきました。



それが 2000 年の不況で町が真っ暗になってしまいました。企業数も 8000 社からさらに 6000 社まで減少したのです。高齢熟練工が続々と退職し、その上マスコミが町工場の仕事を 3K(きつい、汚い、危険)とオーバーに書き立てるので若い人が来なくなりました。韓国からは町工場のおやじをハンティングする動きもあったのです。モノづくりの灯がまさに消えかけたのです。

青木さんの会社は其中でひたすら手づくりの技術を磨き、航空機部品の世界に挑戦してきました。ここでは小さな部品でも最高の技術が求められ、それでいて利益は極めて薄いのです。しかし青木さんは、航空機部品の製造の場合は長期の日程で納期を組めることに着目しました。不況のときがチャンスでして最先端の機械を半値以下で買って設備投資をしたのです。これが収益の点で大きかったのです。

ところが順調に見えたこの事業も、9・11米国同時多発テロで突然売り上げが半減してしまいました。しかし、この危機は社員たちの発想による鉛の金型の開発・製造により、乗り切ることができました。

ここで青木さんはやはり何としても若い人たちを呼び戻して、町全体を復活させようという使命に目覚めたのです。

そのためには、まず若い人を知ることから始めようと思い、青木さんは大阪の若者の街「アメリカ村」へ通いました。そこではファッションがキーポイントであることに気づき、チタンの指輪を作ったのですが成果が得られませんでした。

それではと、仲間呼びかけて航空機の部品でなく航空機そのものを造ろうとしましたが、これはさすがに相手にされませんでした。次に大学の航空宇宙の専門の先生を呼んでロケットの打ち上げを相談しましたが、開発費がかかりすぎるため無理だが、人工衛星ならできると言われました。そこで早速プロジェクトをスタートさせましたところ、マスコミがいっせいに注目してくれました。大阪府大が乗り、さらにつくばの JAXA までが反応し、NEDOの委託事業により資金提供も受けています。このために数百人の人が動いています。

実証で示すことが若者に対して最も説得力があると考えています。

人工衛星が有名になったことで、東大阪に修学旅行生が訪れるようになりました。青木さんの小さな工場にも一年で 1000 人もの見学者が来ました。海外からもたくさんの方が訪れます。町に若者たちが戻ってきています。



青木さんが入院した時、看護婦から「かつては出身地の東大阪は中小企業の町で汚い、ひったくりなどが多く、ガラの悪い町として恥ずかしくて言えなかったが、今では人工衛星を造る町である、物づくりの町であると自信を持って言えるようになった。ありがとうございます。」と言われるまでになったそうです。

さらに嬉しいことに青木さんの会社は、ほかの大企業を差し置いてボーイング社の日本初の認定工場になりました。その理由は査定のときに「社員の目が輝いていたから」だったそうです。

青木さんは魅力ある会社の条件として、社員が仕事、会社、そして自分に誇りを持つことを挙げました。その経営哲学に町の仲間たちが共鳴して、東大阪はいまや大田区、墨田区を凌ぐ勢いになっています。青木さんのお話はパリでも大もてだったといえます。

最後に青木さんがいつも手放せないという本の紹介がありました。『経営指針で会社が伸びる—魅力ある会社の条件』(労働旬報社)です。いつもこれを見ると勇気付けられるとおっしゃっていました。

講演のあとの交流会でも青木さんの河内弁は冴えました。東工大にはモノづくりのメッカを自負してきた長い歴史がありますが、青木さんの熱いロマンに受けた刺激は強烈でした。お集まりの皆さんもあらためてモノづくりの魅力をしっかりと受け止められたことでしょう。

青木さんありがとうございました。

(吉澤 有介 S28 繊維 記)